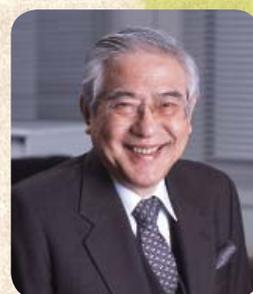


理事長メッセージ



2007年9月

国際交流基金
(ジャパンファウンデーション)

理事長 小倉 和夫

今ほど独立行政法人を含む公的機関の存在意義について問われている時期はないでしょう。私どもは2003年10月の独立行政法人化以来、活動内容や運営方法について鋭意改革を実施してまいりました。こうした改革は効率化のためばかりではなく、国際文化交流におけるジャパンファウンデーションの役割を再定義し、その活動をさらに充実させるためにも必要であると確信しております。

他方、広く世界に目を向けますと、日本への関心は高まりこそすれ減っておりません。例えば、日本語学習者の数は益々伸び230万人以上にのぼっており、その数は年々増加しております。多くの国で日本語教師の養成が急務になっています。こうした状況に対応すべくジャパンファウンデーションは、日本語国際センターにおいて海外の日本語教師の研修を行い、またインターネットを通じて日本語教育についての情報や教材を提供しています。また、日本語能力試験を世界各地で実施し、学習の達成目標についての国際的標準の確立をめざしています。

また、長期的視点からは、海外での日本理解を深めるためにも、その核となるべき日本研究者の育成が不可欠です。ジャパンファウンデーションは、フェローシップの供与などの形で数多く学者・研究者を育成してきました。その中にはそれぞれの国で指導的役割についた人材だけでなく、今後も海外での日本理解促進の触媒となるべき人材の育成につとめる所存です。

文化面では、世界各地で日本の漫画・アニメ・Jポップ、日本の現代文化、若者文化に対する関心が高まっています。それに伴ってその背景にある日本の伝統文化についても関心を持つ人々も多くなっています。文化芸術を通して、いわば日本の「こころ」を知ろうとする人々の関心や気持ちに応えることが今まで以上に必要となっています。また、国際交流を通じて世界的な、共通の創造の源を活性化してゆくことも私達の使命と考えています。

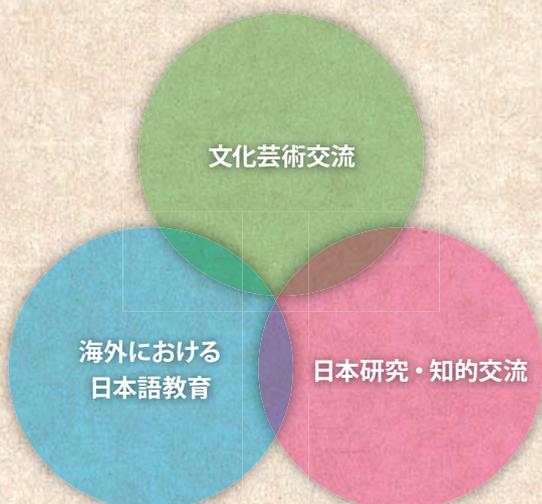
最後に、文化は平和の構築にも欠かせない要素です。途上国の文化財の保護への協力や、

紛争予防、または紛争で傷ついた人の心を癒し復興への意欲をかきたてるための文化事業など、世界平和の構築のために、文化交流という理念を今後一層高く掲げてゆくことが大切と考えます。

このように多岐にわたる活動を国際交流基金が2006年度にどのように進めてきたかをご紹介しますのがこの年報です。

皆様と手を携えて豊かな安定した世界を築くために今後も努力してまいりたく、皆様のご理解、ご支援をお願いいたします。

ジャパンファウンデーションの 事業部門は3分野



Contents

- 理事長メッセージ
- 2 国際交流基金とは
- 3 改革への取り組み
- 4 重点地域・周年事業の取り組みの一例
- 5 国際交流基金賞・奨励賞
- 6 文化芸術交流
- 16 海外における日本語教育
- 22 日本研究・知的交流
- 30 情報提供・国内連携
- 34 海外ネットワーク
- 45 財務・組織